

# 平成 24 年度胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の状況について

平成 25 年 7 月 26 日  
北海道胆振総合振興局

## 1 概要

平成 24 年度の訪日外国人宿泊者数（延べ数）は、アジアからの航空便の増加や円安を背景に、前年度（289,776 人）と比べて 105,579 人増加（前年度比 136.4%）し、395,355 人となりました。

しかし、平成 22 年度（433,717 人）と比べると 38,362 人減少（平成 22 年度比 91.2%）しており、東日本大震災前の水準には依然として戻っていない状況にあります。

### （上期）

上期の訪日外国人宿泊者数（延べ数）は 203,418 人で、前年度同期（104,264 人）と比べて 99,154 人の増加（前年度同期比 195.1%）となりました。

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災や原発事故の影響などにより、平成 23 年度上期の宿泊者数は平成 22 年度同期比 45.1%までに減少しましたが、平成 24 年度においては、観光客の回復が見られるようになったため、前年度と比べて大幅に増加し、上期全体としては、平成 23 年度からほぼ倍増しています。

しかし、平成 22 年度上期（231,128 人）との比較では、27,710 人の減少（平成 22 年度同期比 88.0%）となっています。

### （下期）

下期は、定期便の就航やチャーター便の増便などに伴い、台湾、タイからの観光客が急増したことを受け、前年度同期（185,512 人）と比べて 6,425 人増加（前年度同期比 103.5%）し、191,937 人となりました。

一方、中国からの観光客は、前年度同期と比べ 20,700 人減少（前年度同期比 38.2%）し、12,819 人となっています。

なお、平成 22 年度下期（202,589 人）との比較では、10,652 人の減少（平成 22 年度同期比 94.7%）となっています。

## 2 圏域・国別の状況

訪日外国人宿泊者数（延べ数）を国・地域別に見ると、台湾が 183,254 人で最も多く、次いで韓国（69,313 人）、中国（51,157 人）、香港（39,517 人）、シンガポール（17,230 人）となっています。

このように、上位 5 か国はすべてアジア圏の国で占められており、その他タイ（9,444 人）、マレーシア（6,531 人）及びインド（17 人）を含めたアジアからの観光客が、訪日外国人宿泊者数（延べ数）全体の 95%を占めています。

中でも、台湾とタイからの観光客は急増しており、東日本大震災前の平成 22 年度と比べて、台湾からの観光客は約 1.5 倍に、タイからの観光客は約 2.5 倍となっています。

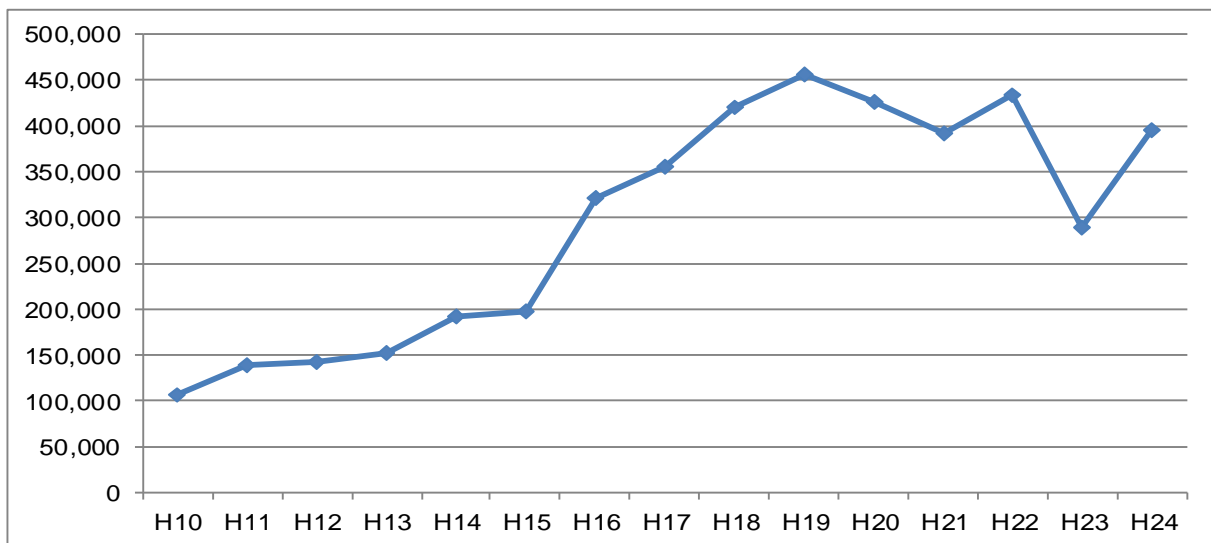
【参考1】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）内訳

（単位：人、％）

順位	国名	平成24年度宿泊者数(延べ数)		対前年度比	前年度からの増減数
			構成比		
1	台湾	183,254	46.4	146.0	57,701
2	韓国	69,313	17.5	128.8	15,504
3	中国	51,157	12.9	116.6	7,265
4	香港	39,517	10.0	114.9	5,120
5	シンガポール	17,230	4.4	113.8	2,088
その他		34,884	8.8	205.4	17,901
合計		395,355	100.0	136.4	105,579

【参考2】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の推移（H10年度～）

（単位：人）



【参考3】胆振管内訪日外国人宿泊延べ数 国別の推移

（単位：人）

